

金木エリアマップ

この道は、太宰の懐かしい思い出と通っている。

幼少期を過ごした金木は、太宰にとって数々の思い出が残る懐古の地。生家の「斜陽館」周辺の街並はもろろん、広域に渡ってその足跡を残しています。「思ひ出」などの短編に記されたノスタルジックな記憶、そして小説「津軽」で述べられた故郷への思い。かつて太宰が抱いた心情を、追体験する旅へ出かけてみませんか。

太宰も歩いた「通りの物語」

斜陽館通り(本町)

「斜陽館」前の通りは、かつて周囲に警察署、郵便局、裁判所、銀行などが軒を連ね、太宰は小説「津軽」の中で、「これという特徴もないが、どこやら都会風のちょっと気取った町である」と紹介しています。

仁太坊通り(小川町・米町)

かつて、映画館や飲食店など娯楽の中心地として、金木で最も賑わった通りで、津軽三味線の始祖・仁太坊が門付けをして歩いたことに因んで名付けられました。仁太坊は、坊様三味線や乞食三味線とさげすまれながらも、独自の叩き奏法を編み出しました。

太宰通り(寺町)

太宰の教養・道徳観に影響を与えた寺社群が建ち並び通りです。かつて津軽藩代官所、旧家、大店が軒を連ね、寺社門前の商店街として呉服商や醸造元、酒屋、印刷所、医院などで賑わいを見せた文化的な一角です。

荒馬通り(北新町)

かつて、旧役場、旧営林署、旧消防署等の行政区域として栄えた通りです。津軽藩主が領地を巡検する勇姿を再現した県無形文化財「金木さなぶり荒馬」に因んで名付けられました。金木には本格的な競馬場が開設され、サラブレッドが疾駆していたそうです。

メロス坂通り(南新町)

日本民間飛行家第一号・白戸栄之助生誕の地や太宰治疎開の家「新座敷」のある通りで、「走れメロス」に因んで名付けられました。かつて、魚問屋、飲食店などが軒を連ね、駅から東西南北のバス路線が分かれ、物流拠点として栄えたそうです。

